

表紙モノ語り

占鈴

地域：日本 大阪

1985年受入（津村重一土鈴コレクションの一部）

標本番号H0142428～0142439

●
こんどうまさき
近藤雅樹

民博 民族文化研究部

専門は、民俗学・民具研究。現在は、渋沢敬三の業績と、
彼が開設したアチック・ミュージアムの活動を中心に調査中。

これら一二個は、蜂田神社（大

阪府堺市）から授与される土鈴
ようになつた。

とも一般的になつたのは、粥占

のかずかず。式内社である同社

市吉備津に鎮座する吉備津神社
音きびつによる占いとしては、岡山
「鳴釜なるかま神事」がよく知られてい

である。竹管内の白粥または小
の農作物や漁獲を占うのであ

には、古来、鈴占神事という秘

儀が伝えられてきた。節分の未

明。冷気の中に響く鈴音が神秘

的であるという。これは、三世

紀前半に活躍した呉王孫権の

新春の神事に小豆は欠かせ

末裔と称する蜂田連が製し奉

納する土鈴一二個の音色によ

しても、参拝者たちに温かい善

つて、年中の吉凶を占う神事で

る。拜殿の賽銭箱と太綱に取り

目的は、寒気をしのぐことにあ

ある。神事後、鈴は木槌で碎

つけられた大きな鈴は、神社に

いた奉納された脇役の鈴にばか

かれて境内の鈴塚に埋納され

鼓は、神との交信に不可欠な道

副が転倒してしまつたのだろ

ていた。しかし、昭和四年以来、

具。だから、鈴音の響きに神意

う。そして、神社名も「泉州鈴

当日の参拝者たちに籤くじを引か

せて授与するようになった。社

の宮」という俗称のほうが知れ



〈訂正〉11月号「表紙モノ語り」で「代親布」の標本番号と掲載データベース名に誤りがありました。正しい標本番号は「H0161405」で、資料名「コマケンドヨー」が掲載されているデータベースは、標本資料詳細情報データベースです。訂正してお詫びいたします。